

第 3 次淡路市総合計画及び 第 3 期淡路市総合戦略 (基本構想案)

令和 8 年 5 月 29 日時点

目次

第1編 序論	1
1. はじめに.....	2
2. 基礎調査に基づく課題抽出.....	4
3. まちづくりの課題.....	5
4. 計画の推進.....	7
第2編 基本構想	9
1. 理念.....	10
2. 将来像.....	10
3. 将来人口.....	11
4. グランドデザイン・ゾーニング.....	12
5. 基本政策.....	13
6. 施策体系.....	14

第1編 序論

1. はじめに

(1) 策定の趣旨

淡路市では、「いつかきっと帰りたくなる街づくり」を将来像に掲げた「第2次淡路市総合計画（平成29年度～令和8年度）」に基づき、市民とともにまちづくりを進めてきました。

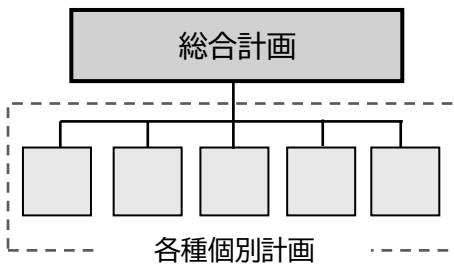
この間、新型コロナウイルス感染症の拡大は、人々の暮らしや価値観に大きな変化をもたらしました。働き方や人とのつながり、地域との関わり方が見直され、デジタル技術の進展も急速に進むなど、社会は大きな転換期を迎えています。一方で、人口減少や少子高齢化は加速度的に進み、地域経済の縮小や担い手不足など、地方を取り巻く課題は一層深刻化しています。

しかし、こうした時代だからこそ、淡路市が持つ豊かな自然、食、歴史、人のつながりといった地域資源の価値が改めて注目されています。便利さだけでは測れない“暮らしの豊かさ”を実感できるまちとして、淡路市には大きな可能性があります。

これからの10年は、人口減少を少しでも抑える「挑戦」と、人口減少社会に適応しながら持続可能な地域をつくる「備え」の両方が求められます。すべての市民の可能性を高め、誰もが自分らしく輝けるまちを目指し、新たに令和9年度を初年度とする「第3次淡路市総合計画」を策定します。

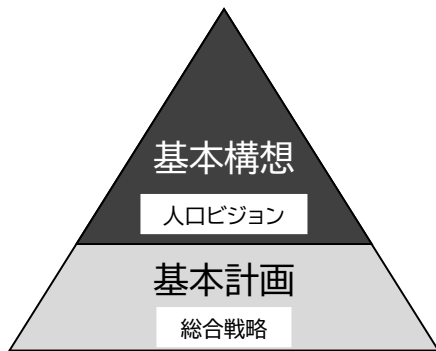
なお、本計画は、人口減少対策に重点を置く「総合戦略」と、新たに改訂する「人口ビジョン」を一体的に策定し、将来を見据えた総合的なまちづくりの指針とするものです。

(2) 位置付けと構成



市の最上位計画

本計画は、まちづくりの長期的なビジョン（将来像）や方向性を示すものであり、淡路市の最上位計画として位置づけられます。



「基本構想」と「基本計画」で構成

本計画は「基本構想」と「基本計画」により構成され、「基本構想」では長期的（10年）視点からまちづくりのビジョン（将来像）や方向性を示し、「基本計画」では中期的（5年程度）視点からビジョン（将来像）の実現に向けたまちづくり分野別の目標や施策を示す計画としています。

人口ビジョンは、まちの目指す将来人口を示した計画であるため、基本構想に内包。総合戦略は、人口減少抑制策や人口減少適応策をとりまとめた人口政策の計画として、基本計画に内包。本計画はこれらを一体的に策定した計画です。

(3) 計画の期間

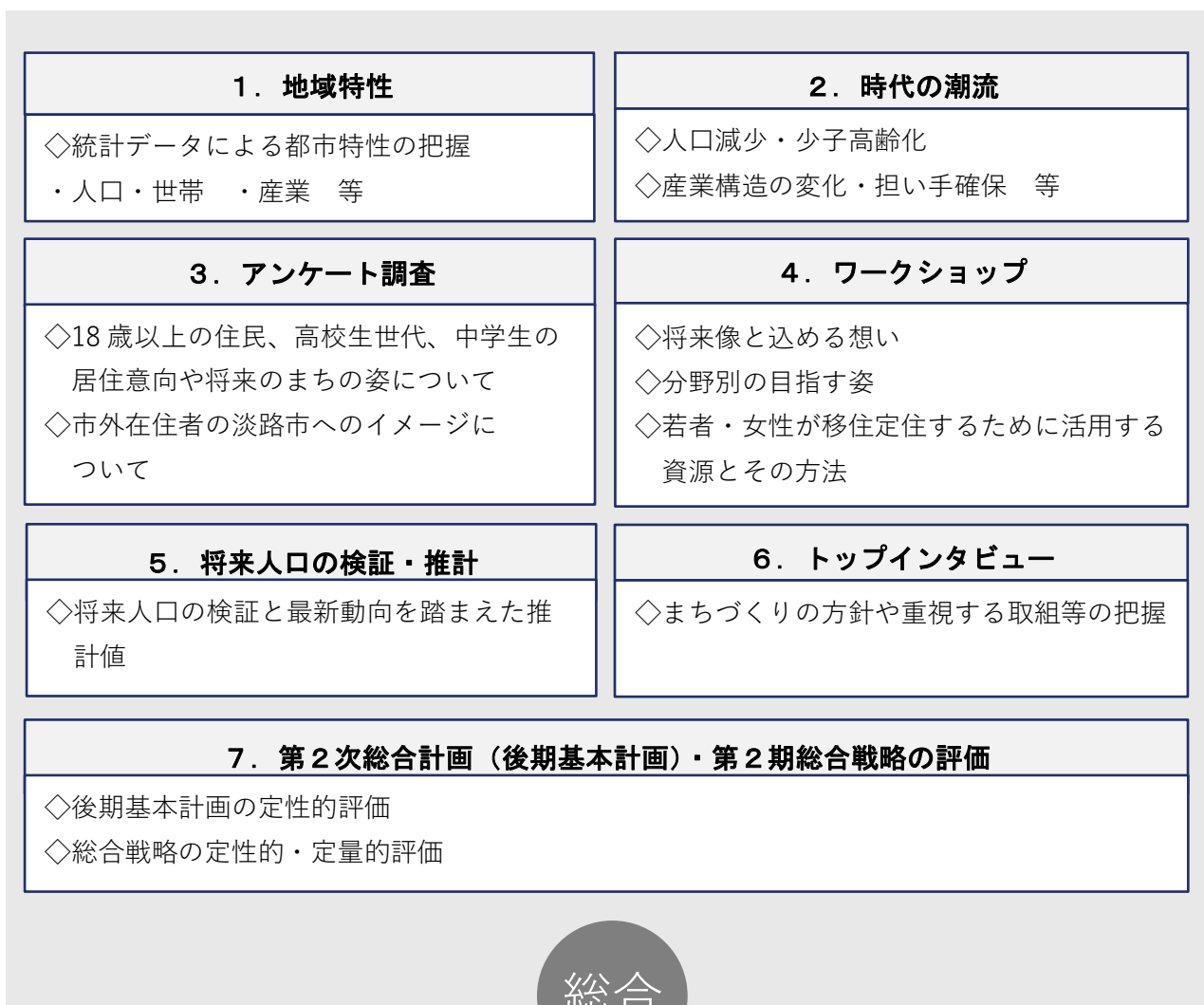
計画期間については、基本構想を令和9年度から令和18年度までの10年間とし、基本計画は前期と後期それぞれ5年間とします。前期から後期への移行の際に、その時点の現状等を踏まえ見直しを実施します。

また第3期まち・ひと・しごと創生総合戦略は、5年計画とします。



2. 基礎調査に基づく課題抽出

近年の本市の状況及び本市を取り巻く社会の動向を探るとともに、アンケート調査による住民ニーズの把握や現行計画（第2次後期基本計画）の検証等により、第3次総合計画策定にあたっての主な課題の抽出を行いました。



データ等からみる淡路市の課題の整理

3. まちづくりの課題

市の固有の資源を磨き、未来へ仕掛けていく、市民とともにつくる淡路市に向けたまちづくりにおける課題は次のとおりです。

(1) 若者に選ばれる「住みたい・戻りたい」まちづくり

中高生の約8割が将来的に市外への転出を希望しており、その主な理由の一つが「魅力的な就職先の不足」です。人手不足が懸念される第1次・第2次産業において、ICTやAI技術を活用して生産性を向上させるとともに、新しいテクノロジーを活用した仕事の場を整備することが求められます。

淡路市固有の価値（自然、食、歴史等）を活かした「職×住×遊」のPRができるシティプロモーションを戦略的に行き、多様な働き方を創出する、また医療・福祉・農業・観光・再生可能エネルギー等がつながる地域循環システムを構築ことで、若者が魅力を感じ選ばれるまちとなる必要があります。

(2) 生活利便性と質の向上

市の最優先課題として挙がっている「公共交通機関や道路網の整備」については、「あわ神あわ姫バス」などの既存路線を維持しつつ、高齢者や車を持たない若者でも移動しやすい柔軟な交通手段を構築するとともに、買物環境の改善を含めて、デジタル技術（DX）を活用して、生活の質の底上げを図ることが求められています。

また、中高生が望む将来像として「豊かな自然環境を活かした循環型のまち」が上位にあることを踏まえ、自然環境の保全の取組と再生可能エネルギー等を活用した、持続可能なまちづくりが必要です。

(3) 笑顔になれる子育て・教育環境の構築

出生数は減少傾向にあり、子育て世代の減少が顕著となっています。市民の「結婚・子育て支援」の満足度は低くなっていることから、保育料や通学手当等の経済的負担の軽減は継続しつつ、子どもだけの視点でなく、大人が笑顔でいられるような環境の構築が必要です。若い世代が望む「事故や犯罪が少ないまち」を実現するため、地域で見守る体制も求められています。

また、ふるさと教育の強化を図ることで、中高生の愛着を将来の定住に結びつけるため、地域の自然や産業（農林水産業）を体験する機会を増やし、郷土への誇りを醸成することが重要です。

(4) 関係人口構築から移住への結びつき

年間約 962 万人の観光客が本市を訪れていますが、その約 98%が日帰り客であり、宿泊客はわずか 2%程度に留まっています。住民の生活とのバランスをとりながら、多くの訪問者が一時的な「通過」で終わっている中で、地域との深い関わりをもつ（関係人口）や、その先の定住に結びつく「滞在・体験型観光」へのつながりに力を入れていく必要があります。「人と人が接する体験」を通じてリピーターを増やし、地域との継続的なつながりを構築する仕組みが求められています。

(5) 防災力向上と共助を高めるコミュニティづくり

今後、発生が懸念されている南海トラフ巨大地震等の災害への備えを見据え、自助、公助、共助は不可欠です。

公助としては、引き続き、避難所となる体育館への空調設備の設置などの避難所環境の改善、観光客も含めた災害への備えを強化する必要があります。

また近年、人口減少を背景にコミュニティの希薄化が進み、コロナ禍以降拍車がかかっています。災害時の共助が不安視され、受援力を高めることが求められています。

そのため、市民が「自分ごと」として主体的に取り組む地域活動に対し、行政が伴走型支援を行い、移住者、外国人等も含めた多様な人々が役割を担う、地域コミュニティ意識の高揚を図ることが重要です。

(6) 期待される行財政運営と「共創」の市政運営

本市は、これまでも行政改革大綱や新行財政改革推進方策に基づき、行政改革に取り組み、実質公債費比率の減少や財政安定化に努めてきました。

今後も人口減少が見込まれる中、財政運営は厳しい状況が続くと予測されますが、行財政運営の施策満足度を向上させ、市民の生活満足度向上に寄与する、より安定的で透明性の高い行財政運営が期待されています。

また、社会が大きく変化していく中で、様々な行政課題や地域課題を解決していくためには、全ての市民が主役となり、地域の団体や企業、行政が一体となって、ともに考え、汗を流す「オール淡路市」の取組みが不可欠です。持続可能な市政運営のためにも、市民の方との対話やコミュニケーションの機会を増やすなど、市民とともに創り上げていく「共創」によるまちづくりが重要です。

4. 計画の推進

(1) 共創で進める持続可能なまち

まちづくりは、市民自らが主体となり、行政と共に創り上げていく参画意識の醸成に努めます。市民一人ひとりがそれぞれの役割を担い、民間企業や広域での連携も積極的に取り入れることで、「居心地のよさ」と「市民目線」のまちづくりを目指します。

安定的で透明性の高い 行財政運営

限られた財源を最大限に活かすため、行財政の健全化を進めます。デジタル技術の活用や業務の効率化にも取り組み、質の高いサービスを安定して提供し続けられる行政基盤をつくりま



オール淡路市で課題解決

少子高齢化や目まぐるしく変化する社会情勢に行政だけでは解決が難しい課題が増えています。市民・地域団体・NPO・企業など、一人ひとりの声を大切にしながら、地域全体で支え合



共創のまちづくり

市民が主体的に関わることができるよう、参画の機会を広げます。市民と行政が対話を重ねながらともに考え、ともに動く「共創」の関係を大切にします。多様な意見や発想を取り入れることで、しなやかで活力あるまちづくりを進めます。



(2) 国・県・他自治体や地域間等の連携

計画の着実な推進においては、国・県・他自治体とこれまで以上に緊密な連携と協働を図り、効率的かつ効果的な行政運営に取り組むことが重要です。

また、広域連携による地域活性化や交流人口の創出・拡大等を見据えた周辺自治体との連携を図り、本計画を推進していきます。

市内においては、施策間の連携を緊密にし、横断的視点を持ち、常に市の実情を勘案しながら、課題解決に向けて計画の推進を図っていきます。

(3) 計画の進捗管理

本計画については、将来像の実現を目指し、市民、企業、学校など多くの方々とまちづくりの方向性を共有し、本市の強みである、人、自然、食を最大限活用し、持続可能なまちづくりに向けて、計画を推進していくことが重要です。

基本計画の各分野に設定した目標指標の数値については、計画の推進をより効率的かつ効果的なものとするため緊密な庁内連携を図り、進捗管理を行います。

総合戦略については、基本目標に設定した数値目標の達成を目指し、各施策にある主な事業をKPIにより進捗管理を行うため『P D C Aサイクル』に基づき事業を推進していきます。また、外部有識者等を含めた検証委員会による評価・検証を行い、その結果を踏まえ必要に応じた事業の見直しを行うものとします。



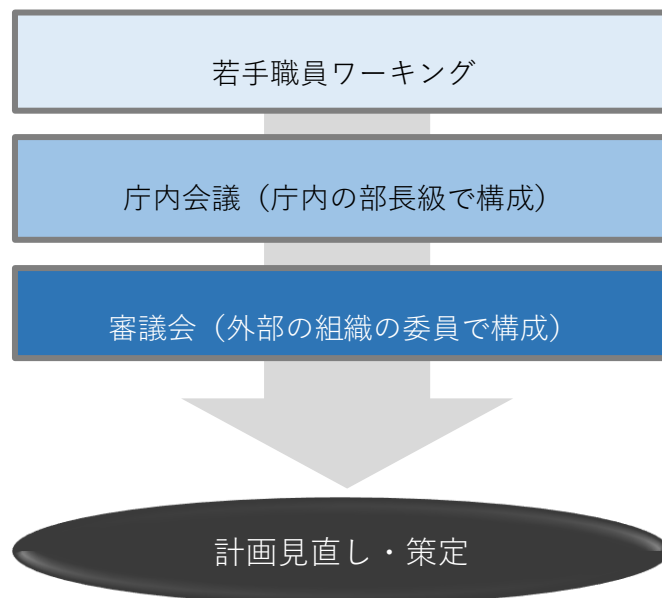
<総合計画におけるP D C Aサイクル>

- Plan 計画の策定
- Do 施策・事業の着実な実施
- Check 実施した施策・事業の効果をKPI等により検証
- Action 必要に応じた計画の改定

(4) 会議体の設置

総合計画の策定にあたり、以下の会議体を設置し、策定しました。

計画満了に向けての見直しに加え、計画期間中においても評価による様々な課題に対応できるよう、各会議体を設置し、基本計画の見直しを行います。



第 2 編 基本構想

1. 理念

すべての市民の可能性を高め、すべての市民が輝くまちづくり

人がいてこそその淡路市であり、一人ひとりの輝きこそが淡路市の活力です。

私たちは、すべての市民が夢と希望を持って挑戦できるよう、その可能性を高める環境づくり、まちづくりを進めます。多様な個性が光り輝くまちづくりを通じて、淡路市で暮らす価値を向上させ、次世代へ誇れる夢と希望ある未来を共に切り開きます。

2. 将来像



暮らすほど、好きになる。

淡路市には、美しい自然や豊かな食、人と人との温かなつながりなど

このまちならではの魅力があります。

そして、その魅力は、暮らしの中で人と関わり、挑戦し

自分らしく過ごすほどに深まっていきます。

「MORE」には、淡路市の魅力や価値をさらに高めていくこと、

そして、市民一人ひとりの可能性や挑戦が広がり

自分らしく輝けるまちを目指すという想いを込めています。

人・暮らし・活力がつながり合い、市民一人ひとりが

このまちに誇りや愛着を感じられる

“暮らすほど、好きになる。”淡路市を目指します。

理念とは、まちづくりの“考え方・軸”
将来像とは、その理念のもとで実現したい“まちの姿”

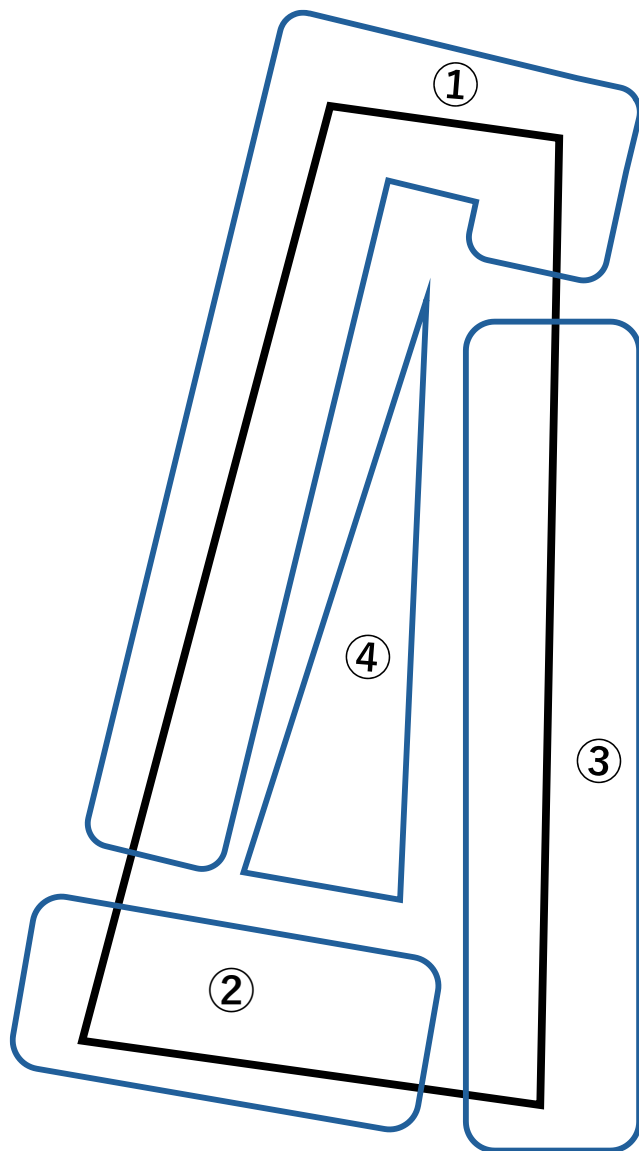
3. 将来人口

将来人口グラフ

将来人口詳細データ 年齢3区分等

4. グランドデザイン・ゾーニング

各地域の特性を生かした次のゾーニングの方向性を明確にすることで、将来像の実現に向けて、より魅力的なまちづくりを推進していきます。



①ウェルカムサンセットゾーン (サンセットゲートシティゾーン)

- ・自然と調和した「アーバンリトリート」。
- ・神戸空港の国際線本格運行、大阪でのIRの開業を見据え岩屋ポートターミナル、交流の翼港を活かした玄関口としての機能強化を図る。
- ・多拠点で活動するクリエイティブワーカール等、交流人口の増加を目指す。

②国生みものづくりゾーン

- ・「国生み神話」や「香」「アート」を中心とした歴史・伝統・文化の発信拠点。
- ・線香や電気、機械等の製造業の集積。製造業従事者の住居確保へ向けて公営住宅の民間譲渡を進める。
- ・多賀小学校跡地の利活用をはじめ、伊弉諾神宮周辺の整備を進める。

③都市機能拠点ゾーン

- ・医療・福祉・子育て・教育施設・商業施設等の集積。
- ・津名港・東浦BTの再整備を核として「まち」の活性化を図る。
- ・定住人口の増加を目指す。

④ファーム&カルチャーゾーン

- ・淡路市の持つ豊かな資源（自然と歴史）の魅力を活かす。
- ・自然と歴史との触れ合い。「食」「農」の生産拠点。
- ・五斗長垣内・舟木遺跡・古道・野島断層保存館の整備を進める。
- ・北淡路土地改良区やクラインガルデン、農家レストランをはじめ、新規就農者や企業参入の増加を目指す。

5. 基本目標



可能性が、育つまちへ

基本目標 1

人を育み、“やってみたい”を支え合うまち

誰もが「やってみたい」という想いを大切に、挑戦できるまちを目指します。福祉の充実を通じ、人と人がつながり、世代を超えて支え合える地域づくりを進めるとともに、教育や市民の学びを通じて、一人ひとりの可能性を広げ、未来へ挑戦する人を育てます。

人の輝きが、まちの力になる。そんな“人を中心にしたまちづくり”を進めます。

基本目標 2

安心と心地よさが、暮らしを支え続けるまち

豊かな自然と穏やかな暮らしを守りながら、誰もが安心して、自分らしく暮らし続けられるまちを目指します。自然環境の保全や道路・上下水道などの生活基盤の充実、防災・減災の取組を進めることで、日々の暮らしを支え、心地よさと安心を実感できる環境を整えます。

“何気ない毎日が心地いい。”そんな暮らしの価値を未来へつないでいきます。



心地よい暮らしを、
いつまでも

基本目標 3

地域資源を、新たな価値へ変えていくまち

淡路市の自然、食、歴史、文化。このまちにある“当たり前”を、新たな価値へ変えていきます。

産業を一段と活性化させ、淡路市ならではの魅力を活かした観光・交流を通じて、人や仕事、新たな挑戦が集まるまちを目指します。暮らしとの調和を大切にしながら、つながりを広げ、“また訪れたい、関わりたい、ここで挑戦したい”と思われる、活力あふれるまちづくりを進めます。

また、持続可能な行財政運営と市民との共創を進め、未来へつながるまちづくりを推進します。



地域の宝が、まちの力に

6. 施策体系

(1) 人を育み、“やってみたい”を支え合うまち

施策分野

子ども・子育て	健康福祉	地域福祉
障がい者福祉	高齢者福祉	学校教育
生涯学習・スポーツ	歴史・文化	市民交流
人権・男女共同		

(2) 安心と心地よさが、暮らしを支え続けるまち

施策分野

自然環境	住環境	上下水道
道路・交通	防災・減災	移住・定住

(3) 地域資源を、新たな価値へ変えていくまち

施策分野

農業・水産業	商工業	観光
企業誘致	ふるさと納税	行財政

共創で進める持続可能なまち

人口戦略的
取組

第3期淡路市総合戦略

分野横断の戦略的取組

DXの推進

暮らしを、もっと便利に

デジタルの力で、
持続可能で利便
性の高いまちへ

シティプロモーション

まちの価値をもっと伝える

淡路市の魅力を
高め、内外に発信
し、愛着と関係人
口を広げるまち